

ミヤマシジミ研究会の設立趣旨

ミヤマシジミ(学名 *Lycaeides argyrognomon*)は、鱗翅(チョウ)目シジミチョウ科に分類される開翅長 2-3 cmのシジミチョウです。このチョウは日本以外に朝鮮半島, ロシア, ヨーロッパ, 北アメリカに生息しています。日本ではかつて本州の中部・関東・東北地方に広く分布していましたが, 現在では長野, 山梨, 静岡県以外の地域では, 急激に生息地が減少しています。

そのため 2012 年には環境省のレッドデータブックで絶滅危惧 I B 類ランクアップされました。また長野県版レッドデータブックでも準絶滅危惧に指定されているのをはじめ, 13 の県が絶滅危惧種に指定しています。ミヤマシジミの幼虫は, 日本では小低木のコマツナギ(マメ科)しか摂食しません。コマツナギはかつて駒を繋ぐため, また馬が好んで食べるために田畑の畦畔や河川敷に多く残されていました。最近では長野県においても, 農業技術の進歩や河川の整備に伴ってコマツナギの群落が減少し, ミヤマシジミも見られなくなってきました。

このような里山の農牧業に適応して人間と共存してきたミヤマシジミを守ることは, 我々が築き上げてきた信州の生きもの豊かなアルプス山麓の景観と美しい農山村の里山生態系を大切に未来につなげていくことにつながります。最近このような状況が理解されつつあり, 長野県特に伊那地方においては地元の人々のあいだでミヤマシジミを守る会を作って, この絶滅危惧種のチョウを保護する活動が活発になってきました。

この「ミヤマシジミ研究会」は, 生きものの保全・保護にかかわっておられる方々の活動や研究の情報を交換し, さらに共同で活動を行うことによって, ミヤマシジミの保全・保護活動と研究活動の拡がりを図ることを目的として平成 25 年 11 月 2 日に設立されました。またこの研究会を母体として, 自然保護・環境保全に関心のある会員の交流をはかるとともに, 各種環境活動助成金ファンドへの応募, ミヤマシジミ保全活動の PR, 子ども達への環境教育などを進める予定です。つきましては, ミヤマシジミの保全・保護に携わっておられる団体や機関の方, またミヤマシジミに関心をお持ちの方の御参加をお願いいたします。

平成 25-26 年度 役員

会長 中村寛志 (信州大学農学部)

幹事

飯島守る会 (仮) 林公明

辰野生きものネットワーク 土田秀実

横山地区ミヤマシジミを守る会 中村新一

西春近ミヤマシジミを守る会 岡村 裕

事務局長 江田慧子 (信州大学山岳科学総合研究所)

監査 伊那市耕地林務課